

当局、告訴動労「本部」不当処分発表

日刊 動労千葉

81.9.13 全国版 No.94

国鉄千葉動力車労働組合
千葉市要町二一八（動力車会館）
（鉄電）二九三五（六）（公衆）（電）三二七二〇七

%怒りの抗議減産闘争で反撃

全国の動労組合員のみなさん。九月八日、国鉄当局は、わが動労千葉の拠点・津田沼支部の片岡支部長以下六名にたいし休職・停職一ヶ月の不当処分攻撃をかけてきました。その処分理由は、動労「本部」革マル分子による「六・一二津田沼事件」デッチ上げ・告訴を利用した極めて理不尽なものであります。この処分攻撃の中に、国家権力・国鉄当局・「本部」革マル反動分子の三者連合による動労千葉組織破壊攻撃の構図をみてとることが出来ます。ここにおいて、「本部」革マル反動分子の告訴路線の反動性、反労働者性は、あまりにも明らかではありませんか。動労千葉破壊のために権力に告訴・弾圧要請をし、当局による処分をひき出させるという、およそ労働組合にあるまじき腐敗した行為であります。全国の動労組合員のみなさん。今回の不当処分に抗議し、告訴路線をもってセクト的延命を策す「本部」革マル反動分子追放・一掃にいまこそ決起しようではありませんか。

局前抗議集会・減産闘争にたつ

今回の六名への休・停職処分が発表されるや、組合員は、「処分の元凶は「本部」革マル反動分子のデッチ上げ・告訴にある」と怒りを燃し、「本部」反動分子のデッチ上げ・告訴に便乗した不当処分だ」と当局に抗議の声をたたきつけました。とりわけ津田沼支部では、処分の知らせをきいてかけつけた組合員が現場当局に徹底した抗議を浴せつけました。こうした怒りの対当局抗議行動に恐れをなしたのか、コロビ屋・革マル分子嶋田誠はいち早く職場から逃亡するという卑劣漢ぶりを発揮したのであります。

昼間の闘いをひきついで夕刻開催された、千葉鉄局前抗議集会には、折りからの強風雨をついで全支部から三六〇名が結集し、国鉄当局に対する怒りをたたきつけました。この集会では、六名の被処分者が十七日間の獄中闘争を完全黙秘・非転向をもって闘い抜いた決意を新たににして、国鉄当局を激しく糾弾し、「われわれは、百パーセントデッチ上げによる不当弾圧・不当処分腹の底からの怒りをたたきつける。この反動の元凶、「本部」革マル反動分子・土屋粹一派を解体・一掃まで闘い抜く。警察労働組合になりはてたやつらに階級的憎しみと怒りと闘いをもって粉砕する」と決意を表明し、全組合員は、この被処分者の怒りを自らのものとして闘い抜くことを確認しました。そして翌九日、全一日の減産闘争に決起し、不当処分糾弾・組織破壊粉砕の闘いをうち抜いたのであります。

第二マル生推進者 「本部」革マル反動分子弾劾

今回の六名への不当処分攻撃は、国鉄三五万人体制攻撃を遂行せんとする国鉄当局の新たな第二マル生攻撃の展開としてあることを見据なければなりません。

国鉄当局は、「昭和五五年度職場管理監査結果」の中で「国鉄再建」のためには職場規律の確立をしなければならぬとして、三段階方式による職場問題の改善と称する攻撃を開始しています。それは、①国鉄本社が職場管理監査を行い。②特に問題が大きい職場を「特定職場」に指定し、本社・管理局一体となって「改善」する。③管理局等の地方機関が問題職場の中から「重点職場」を選定し現場と一体となって「改善」する。という労務管理政策であります。今回の処分攻撃は、津田沼支部を「特定職場」に指定し、同時にだされたものであり動労千葉破壊攻撃に他なりません。しかも断じて許せないことに、「本部」革マル反動分子は、こうした当局の攻撃と軌を一にして津田沼電車区の職場規律の厳正を要求し、デッチ上げ・告訴をもって当局に処分を要請したことであります。

全国の動労組合員のみなさん。

「反ファッショ統一戦線」づくり等と叫びながら、その本質は、権力・当局に告訴路線をもってコピヘつらい、その力を借りて動労千葉破壊を策動する「本部」革マル反動分子のセクト的組合ひきまわしであります。これを許すことは、労働者・労働組合の死を意味することであります。動労を警察労働運動にひきこまんとする「本部」反動分子追放・一掃に共にたち上ろう。



No.94

訂正とお詫び——前号全国版の号数に誤りがありました。8月23日号を93号に訂正いたします。